

# 《フィリピン》第18期議会の新上院議員(上)

## 改選12議席は与党連合の圧勝

5月13日に実施されたフィリピンの中間選挙は、選挙管理委員会が同22日に確定結果を発表し、国政への影響が大きい上院(定数24)では、改選12議席のうち9議席をドゥテルテ政権支持の政党連合「改革のための連合(HNP)」が推薦した候補が占めた。無所属や中間派を標榜する他の3人の当選者も実質的には政権寄りの姿勢を示しており、野党連合の推薦候補での当選者は1人もいなかった。非改選の12議員とともに構成される新上院では24議員のうち少数派(野党会派)の議員は4人(非改選)だけとなる。下院(全291議席)でも多数派(与党会派)が圧勝しており、6月30日に発足する第18期議会は選挙前よりもドゥテルテ政権の「翼賛議会」化が進む様相を呈している。

### 上院議員の任期と選出方法

フィリピンの上院は全国区で任期は6年。定員24人のうち3年ごとに半数を改選する。3選は禁止であるため継続して上院議員を務められるのは「2期12年」が限度だが、(下院議員に転じるなどして)1回だけ上院選挙に出馬しないで3年後に上院議員復帰を目指すことが可能である(後述の「人物データ」中に「通算3期目」などと表記してあるのがこうした「復帰」のケースである)。今回(中間選挙)の上院選での「新任上院議員」のうち、ピア・カエタノ、リト・ラビド、ボン・レビリアの3氏がこの例となる。

上院議員が任期途中で正・副大統領選挙に出馬する場合、当選のために生じた欠員は(補欠選挙はせずに)3年間は定員割れのままにしておく。また、落選した上院議員はそのまま本来の6年間の任期を全うすることができる(今回、再選を果たしたグレース・ポー氏がこの例で、同氏は2016年の大統領選挙に出馬し落選している)。

上院選の投票では、各有権者は(立候補者1人の名前を記述するのではなく)改選数である12人を全立候補者リスト(今次の選挙では62人)から選出する。それ故、最下位の12位で当選した者でも獲得票は1,400万票以上という膨大な数になる。

定員24人しかいない上院議員はフィリピン政界のエリートであり、アキノ前大統領、アロヨ元大統領など歴代の大統領には上院議員経験者が圧倒的に多い。その意味でも、前ダバオ市長であるロドリゴ・ドゥテルテ現大統領は異色の存在である。

### 上院議員選挙の結果

[2019年5月14日] 中間選挙(統一国政・地方選挙)実施  
[5月22日] 選管が上院議員選挙の確定当選者を発表

#### 〔新上院議員の政党連合別内訳〕

- \* 与党連合「改革のための連合(HNP=Hugpong ng Pagbabago)」(通称「改革党」): 9人
- \* 野党連合「真っ直ぐな8人(オチョ・デレッチョ: Otso Diretso)」: 0人
- \* 無所属・中間派: 3人

#### 〔新上院議員一覧(得票総数順)〕

※氏名に続き政党連合と所属政党を記載(「—」は与野党いずれの政党連合にも所属していないことを示す)。

- (1) シンシア・ビリヤール: HNP/国民党(Nacionalista)
- (2) グレース・ポー: —/無所属
- (3) ボン・ゴー: HNP/PDPラバン(PDP-Laban)
- (4) ピア・カエタノ: HNP/国民党(Nacionalista)
- (5) ロナルド・デラ・ロサ: HNP/PDPラバン(PDP-Laban)

- (6) ソニー・アンガラ: HNP/フィリピン民主の戦い(LDP)
- (7) リト・ラビド: —/民族主義者国民連合(NPC)
- (8) アイミー・マルコス: HNP/国民党(Nacionalista)
- (9) フランシス・トレンティーノ: HNP/PDPラバン(PDP-Laban)
- (10) ココ・ピメンテル: HNP/PDPラバン(PDP-Laban)
- (11) ボン・レビリア: HNP/ラカス(Lakas)
- (12) ナンシー・ビナイ: —/統一国民連合(UNA)

#### 〔人物データ・ファイル〕

##### ■上院議員 Senator

シンシア・ビリヤール Cynthia Aguilar Villar



中間選挙(上院改選)で、フィリピン選挙史上で最大得票数の約2,528万票を獲得しトップで再選を果たした(2期目)。しかも、2位のグレース・ポー氏には約325万票の差を付けた。この圧倒的な人気から、2022年5月に実施される次期大統領選挙での有力候補の一人と目されている。

\* 6月30日に発足する第18期議会で上院議長への就任に意欲を示しているが、ティト・ソット(Tito Sotto)現上院議長の続投を支持する非改選上院議員らの反対にあっている。

\* 夫君は、米経済誌「フォーブス」(2019年版)の長者番付で、フィリピンで1位(総資産額55億ドル)にランクされたマヌエル・ビリヤール(Manuel B. Villar Jr.)元上院議長(上院議員の在任期間: 2001-13年)で、不動産業を中核とする複合企業体「MBビリヤール・グループ」の総帥。同(シンシア)氏は、上院議員を連続2期務めた(連続3選禁止規定に抵触するため上院選に立候補しなかった)夫の議席を引き継ぐ形で、2013年5月の中間選挙で初当選(順位は10位)した。

\* 13年の初当選時はアキノ政権与党連合(Team PNoy)の一員だった。今回の中間選挙では、アキノ前大統領の政敵であるドゥテルテ現大統領の与党連合「改革のための連合(HNP)」に加わり再選を果たしている。政治信条と多少は異なっても時の政権側に寄り添うのは、フィリピンの政治家の一般的な傾向ではあるが、それにしても同(シンシア)氏には「政治的な節操がない」と皮肉な論評もある。

\* 上院議員の総資産額ランキングで断トツの1位(7,200万ドル)。豊富な資産の一部を投じて自ら創設した「ビリヤール財団」では専務理事として、環境保全、野生生物保護などの活動に取り組んでいる。また、海外出稼ぎ労働者(OFW)の福利厚生や生活支援に尽力していることでも知られる。こうした活動が人気の高さに繋がっているのも確かである。

▼データ: 【愛称】シンシア 【政党】HNP/国民党(Nacionalista) 【年齢】68歳(1950年7月29日生まれ) 【生地】リサール州(現マニラ首都圏)モンテンプルパ市 【住所】マニラ首都圏ラスピニャス市 【学歴】[1970年] 国立フィリピン大学(UP)卒(経営学士)/(米)ニューヨーク大学経営学修士(MBA)

【経歴】実業家・政治家/「フィリピン・シェアーズ(Shares)社」証券アナリスト/ファーイースタン大学講師/[1975年]「ハウスホールド・ファイナンス」社副社長/[90年]「キャピトル・ディベロップメント・バンク」頭取(-98年)/[2001年5月中間選挙]下院議員(マニラ首都圏ラスピニャス選挙区:以後、3期連続当選)(-10年)/[13年5月中間選挙]上院議員に初当選、[7月]上院政府企業・公共企業体委員会委員長兼農業・食糧委員会委員長(-16年7月)/[16年7月]上院環境・天然資源委員会委員長(-現在)/[17年2月]上院農業・食糧委員会委員長(-現在)、[5月]上院農地改革委員会委員長(-現在)/[19年5月14日中間選挙]上院議員に再選(2期目)、[6月30日]上院議員に正式再任(予定)【兼任】[92年]「ビリヤール財団」創設者・専務理事(-現在)【家族】夫のマヌエル(Manuel B. Villar Jr.)氏(元上院議長)との間に2男1女。息子の一人であるマーク・ビリヤール(Mark Villar)氏は現公共事業道路相。マニラ首都圏ラスピニャス市のベルヘル・アギラー(Vergel Aguilar)市長(6月30日就任予定)は実弟。

#### ■上院議員 Senator

グレース・ポー Mary Grace Poe-Llamanzares



中間選挙前の各種世論調査では上院議員候補でトップの支持率を維持していたが、選挙結果はシンシア・ビリヤール氏の後塵を押し2位での再選(2期目)となった(得票総数は約2,203万票)。政治的には、与党連合と野党連合のどちらにも属さない無所属(中間派)の立場だが、改選前の上院では政権寄りの姿勢が目立っていた。2022年5月の次期大統領選挙での候補の一人として名前が上がっている。

\*民主主義や人権の擁護などでは「正論」を語るものの、ドゥテルテ大統領の「独裁的」な政治体質や国連機関や国際的な人権団体などから批判されている、「即決処刑(超法規的殺害)」も辞さない麻薬犯罪者撲滅政策に対しては、上院の野党議員のような明確な批判は行わない。大統領と政権に対して「腰が引けている」との見方が出る所以である。高い人気はその清楚なルックスと2016年の前回大統領選に出馬した(候補者中3位で落選)知名度によるところが大きいとの指摘もある。

\*「不正選挙」の疑惑が出た2004年の大統領選挙で現職のアロヨ大統領(当時)に惜敗した、野党候補の人気俳優、フェルディナンド・ポー・ジュニア(FPJ: Fernando Poe Jr.)氏の養女。同選挙後にFPJ氏が急逝したという悲運もあり、2013年の中間選挙(上院選挙)では同情票も加わってトップで初当選している。

▼データ:【愛称】グレース【政党】無所属【年齢】50歳(1968年9月3日生まれ)【生地】イロイロ州イロイロ市【住所】マニラ首都圏サンファン市【宗教】カトリック【学歴】国立フィリピン大学(UP)で2年間学ぶ(開発学)/(米)ボストンカレッジ(BC)卒(政治学)【経歴】[1995年](米バージニア州)幼稚園教師/[98年]米国地質調査所(USGS)職員(プロキュアメント・リエゾン)/[2001年]CSC Scientific社プロダクト・マネージャー/[04年12月]帰国/[05年]FPJ Production & Film Archive社副社長/[10年]政府映画・テレビ倫理審査委員会(MTRCB)委員長/[13年5月中間選挙]上院議員に初当選/[16年5月]大統領選挙に立候補するが落選/[19年5月14日中間選挙]上院議員に再選(2期目)、[6月30日]上院議員に正式再任(予定)【趣味】テコンドー(赤帯)、テニス、映画鑑賞、読書【家族】夫君はテオドロ・リヤマンサーレス(Teodoro Masael Vera Llamanzares)氏。子供は1男2女。

#### ■上院議員 Senator

ボン・ゴー Christopher Lawrence“Bong”Tesoro Go

ドゥテルテ大統領個人と与党連合の強力な支援を受けて3位で初当選(得票総数は約2,003万票)。ドゥテルテ現大統領が1998年から2016年ま



での間に下院議員、ダバオ市長(3期)、同副市長、さらにダバオ市長(復帰:4期目)と歴任していく中で、一貫して秘書官を務めた。また、16年6月のドゥテルテ政権発足とともに大統領秘書室を所管する大統領特別補佐官に就任した(上院選挙出馬の準備のため、18年10月に退任)。

\*ドゥテルテ大統領が絶大な信頼を寄せる「側近中の側近」。常に大統領の傍らに待機して、どんな任務もこなすことから「キューティリティ・プレーヤー」との異名もとった。セミプロのバスケットボール・チームの選手という顔も持っている。

\*地元メディアでは、正式な氏名ではなく、愛称を使った「ボン・ゴー」で報じられる。

▼データ:【愛称】ボン(Bong)【政党】HNP/PDPラバン(PDP-Laban)【年齢】45歳(1974年6月14日生まれ)【生地】ダバオ地方ダバオ市【住所】ダバオ市【学歴】デラサール大学卒(経営学)【経歴】[1998年](ドゥテルテ)下院議員秘書官/[2001年](同)ダバオ市長秘書官/[10年](同)ダバオ副市長秘書官/[13年](同)ダバオ市長秘書官/ドゥテルテ大統領候補選挙参謀/[16年6月30日](ドゥテルテ)大統領特別補佐官(-18年10月15日)/[19年5月14日中間選挙]上院議員に初当選、[6月30日]上院議員に正式就任(予定)【家族】(公共の場に妻子は姿をみせず、情報も公開していない)。

#### ■上院議員 Senator

ピア・カエタノ Pilar“Pia”Cayetano



上院議員の3選禁止規定のため2016年から下院議員を1期勤め、5月の中間選挙で上院議員に復帰(通算3期目)した。与党連合HNPの推薦を受け、約1,980万票を獲得して4位で当選。

\*2003年にガンで死去したレネ・カエタノ(Rene Cayetano)元上院議員(享年68歳)の長女で、父の政治地盤を受け継いだ「2世議員」。地元マスコミでは愛称を用いた「ピア・カエタノ」で呼ばれるのが通常。

\*息子が先天性の異常で幼くして死亡した経験から、息子の名前を冠した「ガブリエル・シンフォニー財団」を創設し、障害や難病で苦しむ子供たちの支援活動に尽力していることで知られる。

\*今回の選挙で下院議員(タギッグ市・パテロス町単独選挙区)に当選(通算4期目)したアラン・ピーター・カエタノ(Alan Peter Cayetano)前外相(元上院議員)は実弟。

▼データ:【愛称】ピア【政党】HNP/国民党(Nacionalista)【年齢】53歳(1966年3月22日生まれ)【生地】米ミシガン州【住所】マニラ首都圏タギッグ市【学歴】[1985年]フィリピン大学卒(経済学:優等)/[1991年]同大学法学士(LLB)/弁護士資格取得【経歴】[1985年]米国で投資銀行に勤務/[87年]法学士取得のためフィリピン大学で学ぶ/[92年]法律事務所アソシエイト/小売り・流通業関連2社の創設者・社長/(ラジオ局dzMM)「コンパニェロ・イ・コンパニェラ」キャスター/[2004年5月総選挙]上院議員に初当選/[10年5月総選挙]上院議員に再選/[16年6月]下院議員(タギッグ市単独選挙区:一現在)、[8月]下院副議長(-現在)/[19年5月14日中間選挙]上院議員に復帰(通算3期目)、[6月30日]上院議員に正式就任(予定)【兼任】「ガブリエル・シンフォニー財団」創設者・会長【趣味】スポーツは万能。元バレーボール・フィリピン代表チーム・メンバーで、現在でもトライアスロンの他、各種の競技に参加する。サイクリングも得意【家族】子供は養子を含め1男2女。

(注)改選上院議員の残り8人の「人物データ」は次号に掲載します。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)